

2020年度自己点検・評価に基づく重点課題への対応案

【各学部・研究科】

連番	分類	全学点検評価委員会による指摘事項	行動内容（項目）	2021年度達成目標	担当部署	中期AP
1	2021実行中 (環境変化)	第3期認証評価結果では、改善課題として「学位授与方針に示している学修成果を十分に測定できているとはいえないため、各学位分野に応じた適切な指標を設定するよう求められる(抜粋)」として指摘されている。	<学長室> 教学改革推進会議において、「卒業研究梗概+評価集」の作成について検討を深めていく。	<学長室> 各学部で検討する評価方法・指標の設定について2021年度末までに決定、以降の運営が行えるよう支援する。	学長室 教務課 大学院事務室	3
2	2021実行中 (環境変化)	2019年度自己点検・評価に基づく重点課題への対応案として、教学改革推進会議より、「1)卒業論文が必修の学部は、「卒業研究梗概+評価集」を作成する、2)卒業論文が必修ではない学部は、2021年度末までに各学部でその評価方法・指標について検討をすること」が明示されているため、継続した検討及び、計画の実行が望まれる。	<教務課> ①卒業論文をCCSへ保管することを本格稼働させ、併せて、卒業論文受領簿を改訂し、使いやすいシステムを用意する。 ②卒業論文で評価をしない学部については、学部独自の方法について、サポートをおこなう。	<教務課> ①CCS保管率をできる限り100%に近づける。 ②必要であれば、作成を検討する委員会に同席し、情報収集などの協力をおこなう。		
3	2021実行中 (環境変化)	経済経営研究科においては、入学定員の変更に併せて、大きくカリキュラムの改定を行っているため、DPに基づいた教育課程が実施されているか検証を行うことが望まれる。	経済経営研究科に在籍する院生に対し、授業アンケートを実施し、適切な教育課程が行われているかを、研究科において把握する。また、専攻主任・事務局において、カリキュラム改定後のシラバスの記載内容を確認し、適宜、改善を図る。	各専攻における授業アンケートの実施を支援する。シラバスを確認し、専攻主任と共有し、改善への支援をする。	大学院事務室	—
4	2021実行中 (環境変化)	各学部・学科における2021年度入試の出願者数(3月9日時点)は10,869名(前年比:59%)であり、一部学部・学科に入学定員の未充足が予測される。また、2021年度より、こどもスポーツ教育学科の定員削減及びスポーツ健康学科の定員増、国際協力学科の廃止及び国際文化学科の定員増としたため、入試終了後、検証が望まれる。	英米語学科、国際文化学科、こどもスポーツ教育学科の入学定員を充足する。	定員未充足となった学科については、年内入試で昨年以上の入学者を確保できるよう、入試政策入試広報の両輪で改善を図る。	入学センター	24
5	2021実行中 (環境変化)	各研究科・専攻における2021年度入試では、一部研究科・専攻で入学定員が未充足となる見込みである。また、2022年度入試より全研究科・専攻において、入学定員が変更となるため、入学定員充足に向けた対策を進めることが望まれる。	2022年度に変更する定員を満たすよう、入学者数を確保する。	2022年度入試からキャンパスは<ひびの>になり、各専攻の定員も変更になる為、広報による周知を徹底し、適切な志願者を確保していく。	大学院事務室	24

【各教学部門】

連番	分類	全学点検評価委員会による指摘事項	行動内容（項目）	2021年度達成目標	担当部署	中期AP
1	2021実行中 (環境変化)	【各学部・研究科】連番1、2に同じ。			学長室 教務課	3
2	2021実行中 (環境変化)	【各学部・研究科】連番4に同じ。			入学センター	24
3	2021実行中 (問題顕在化)	研究実績のない教員に対する研究活動促進への支援については、継続して検討を進めることが望まれる。	・研究実績のない教員に対し、個人研究費だけでは研究費に不足が生じている場合には学内の研究助成制度があること、成果発表については論集だけでなくディスカッションペーパー等の多様な媒体があることを、教授会報告等を利用し、繰り返し周知し、呼びかけていく。	・サイボウズを通じて、研究助成制度を含めた公募情報の発信を定期的に行う。 ・四半期に一度、教授会報告にて成果公表方法について周知する。	総合研究所	—
4	2021実行中 (環境変化)	【各学部・研究科】連番1、2、3、5に同じ。			大学院事務室	24